

『牧師のトリセツ』

'22/09/18

聖書箇所: I テモテへの手紙 5 章 17-25 節(新約 p.410-)

皆さんは、「言わないといけないけど、なかなかそれが言えない…。伝えるべきことが、伝えられない。」というような経験をされたことがあるかと思います。実は、私も、「いつかはメッセージしないといけないだろう」とは思いつつ、意図的にメッセージすることを避けてきた聖書箇所があります。実は、それが今日のみことばで、私は、牧師になってから 20 年以上経ちますがけれども、この箇所から引用したことはあっても、ここからメッセージしたことは、1 度もありません。…それがようやく今日、このみことばからメッセージをさせていただくことになりました。

…と言いますのも、私たちはここ 2 週間、「神様(と言うか、イエス様)が私たちの教会に牧師や教師を与えてくださったのだ！」ということを学んだわけで、その話の流れで、「じゃあ、神様が与えてくださった牧師や教師たちを、私たち教会がどのように取り扱うべきなのか？」ということを学ぶに当たって、ごく自然な流れであると思ったからです。

命題: 教会は、牧師たちをどう扱うべきでしょう？

今日、ぜひ皆さんにお願いしたいのは…、今から私は、牧師にとって、結構都合の良いことをメッセージとしてお話しさせていただくと思いますので、果たして、それが、神様のみことばである聖書が、間違いなく、教えてくれていることなのか？それとも、私が、ただ単に、自分にとって都合の良いことを言いたいだけなのか？ということを含味してほしいのです。

そうして、もし私の言っていることが、単なる私の願いや考えだと思われるなら、単純に、もう聞き流してください…。いや！できませんでしたら、その反対意見を教えてください！でも、もし今日このメッセージで語られたことが、「確かに、聖書が教えていることである！これは、神様のみことばである！」と確信して下さるなら、「じゃあ、この教会で、今日学んだことが実践できているかどうか？どうやったら、ますます、神様のみことばに近づいていくことができるのか？」ということについて、考えていただきたいと思います。

まずは、どうぞ聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、I テモテ 5:17-25 をお開きください？今日は、このみことばから、先程も言ったように、「教会は、牧師たちをどのように取り扱うべきなのか？」というテーマでもって、みことばを学んでいきたいと思います。どうか、このみことばを学ぶことが、ますます、この教会の成長に繋がり、私たちの祝福…、そして、何より、神様の栄光へと繋がっていきますように…。

I・牧師たちを、働きに従事させよ！(17-18 節)

どうぞ、まずは、今日のみことばの 17-18 節に注目していきましょう。まず初めに、このみことばが教えてくれていることは、**牧師たちを、その“働きに”従事させよ！なすべき務めに専念させなさい！**ということなんです。どうぞ、まずは、今日のみことばの 17-18 節をご覧ください。

17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにはほねおっている長老は特にそうです。

18 聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」、また「働き手が報酬を受けることは当然である」と言われているからです。

● 名称の違いについて…

まず、ここ 17 節をご覧くださいと、牧師ではなく、『長老は…』と記されています。私たちの教会を

含む、多くの福音派の教会では、聖書に出てくる「牧師、長老、監督」という職業を皆同じ職業、同じ役職であると考えています。そのことに関しては、これまでも度々触れてきましたので、今日は時間の関係もあって割愛させていただきます…。

でも、ほんの少しだけ、説明させていただきますと、私たちがつい最近学んだエペソ 4 章のみことばでは、あのイエス様が、「キリストのからだである教会を建て上げるために、使徒や預言者、また、伝道者や牧師、教師を御建てになってくださったのだ」ということが教えられてありましたでしょ？もしも、牧師という役職が長老、あるいは、監督たちと違う役職のことを教えているのなら、イエス様が教会を建て上げるために御建てになった役職は牧師だけであって、長老や監督たちは、そうではない！という話しになってしまいますが、それはおかしくありません？

しかも、エペソ 4 章のみことばでは、先週学んだように、キリストのからだである教会を構成している聖徒たちが教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがないように、教会にリーダーたちが与えられたという話がされてあるのですが…、じゃあ、そのために、神様が教会に与えてくださったのは、牧師だけで、長老や監督と呼ばれている者たちは違うのでしょうか？

実は、聖書を観察してみると、「牧師」なんていう言葉は、新約聖書ではほとんど使われておりません。新改訳聖書第 3 版では、今日のみことばだけです。聖書的に見れば、「長老、監督」の方がよっぽど、たくさん使われてあります。…なのに、教会のリーダーとして、イエス様が教会に与えてくださったのは牧師だけなのでしょうか？…そんなことありませんでしょ？ま、それ以外にも、聖書的な根拠(使徒 20:28)がありますが…、そういったようなわけで、私たち多くの教会では、牧師も、長老も、また、監督と呼ばれている者たちも皆、同じ役職や働きを指していると考えます。…しかし、今日のところは、ここ 2 週間の流れを受けて…、また、この教会の皆さんにも、スムーズに理解しやすいように、「牧師」と表現させていただきます。

● 牧師たちがなすべき 働き とは？

さて、まず私たちが見ていきたいことは、今日のみことばの 17 節にある『よく指導の任に当たっている長老は…』とか、『みことばと教えのためにほねおっている長老は…』という部分です。…良いですか、皆さん。このみことばが、ただ単に、「どんな長老でも…」とか、「すべての長老は…」と書かれて“いない”ことに注目してください。つまり、このみことばは、長老、つまり、牧師たちには、**なすべき正しい務めがある！**ということを教えてくれているのです！

じゃあ、具体的に、牧師たちには、どんな務めが与えられているのでしょうか？…それは、このみことばがもう既に教えてくれているように、「指導すること」です。また、聖書のみことばを学び、その学んだみことばを教えるという働きです。…皆さん、覚えてくださっています？つい 2 週間前に引用したみことばでも、当時の初代教会にあって、配給のことで問題が起こったエルサレム教会にあって、使徒たちが、「自分たちは、何を優先しなければならぬ！」と言っていました？⇒使徒 6:4 には、こう記されています。『そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。』って…。皆さん、聞いてくださいました？当時の使徒たちが、教会のリーダーとして、『もっぱら』、つまり、1 番に優先したことは、「祈りと、みことばを教えること」だったのです！…そうでしょ！

2 週間前に言いましたように、現代の教会に、「使徒」というような役職は存在しません。でも、教会のリーダーたちである牧師たちは、使徒たちと同様、教会のために祈り、また、みことばを教えることが必要です。そして、そのみことばを教えるために、牧師たちは、みことばを学ぶことが必要です。…だって、みことばを学ばないと、牧師たちは正しくみことばを理解することも…、それを伝えることもできないからです。

今日のみことばの 18 節でも、『穀物をこなしている牛に…(とか)、働き手が…』と書かれてあるように、牧師たちには、神様から与えられた働き…、務めがあります！…だから、牧師たちは 1 番に、そういったことを優先してやっていかないといけないのです。

しかし、皆さんご存知でしょうか？…私が聞くところによりますと、比較的小さな教会では、奉仕者が少ないために、牧師や、その牧師の奥さんが教会内のほとんどの奉仕や雑用をしなければならないことが多くて、牧師たちが本来なすべき働きに従事できない！というのが現状だそうです。…もしも、教会の牧師たちが、本来なすべき働きに従事できないと、その教会はどうなっていくでしょう？…果たして、その教会は神様の祝福を受けることができるでしょうか？また、その教会は、神様が願われた通りに、成熟していけるでしょうか？…そうして、その教会は現代に与えられた「生けるキリストのからだ」としての働きを全うしていけるでしょうか？…どうか、そういったことを皆さんには考えていただきたいと思います…。

II・牧師たちを「尊敬」せよ！（17-18 節）

その次に、このみことばが教えてくれていることは、**神様から与えられた務めを全うしている牧師たちを「尊敬」せよ！**ということです。先程読んだ部分と一緒に、どうぞ、もう1度、今日のみことばの 17-18 節をご覧ください。そこには、このように記されています。

17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。

18 聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」、また「働き手が報酬を受けることは当然である」と言われているからです。

●『二重に 尊敬 を受ける』とは？

ここ 17 節のみことばは、『よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。』と教えます。皆さん、ここで言われている『二重に尊敬を受ける』ということが、具体的に、どういう意味が分かっていますか？

実は、ここで、『尊敬』と訳されているギリシヤ語の言葉(τιμῆ)は、「尊敬(という意味の他)、価格、値段、報酬、正しく評価する…」という意味の言葉で、「単なる尊敬などの抽象的なものを指すのではなく、具体的な金銭的謝礼を表わす」ような言葉が使われています。…つまりは、牧師に対する尊敬を、何か具体的な報酬をもって表わしなさい！ということなのです。…しかも、ここでは『二重に尊敬を…』とあることから、「必要最低限で良い」ということではなく、むしろ、「十分な報酬を与えてあげなさい」という教え & 勧めであるはず。…そうじゃありません？

また、その後続く 18 節のみことばは、こう教えます。『聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」、また「働き手が報酬を受けることは当然である」と言われているからです。』って…。「穀物をこなす」とは、所謂、石臼などを使って、麦や米などの穀類を粉末状にすることです。当時は、そういった作業をするのに、牛などの家畜を使うことがあったのです。そうして、「くつこ」と言いますのは、今、前の画面にも出ているように、牛たちが勝手に穀物を食べないように、口にはめるカゴのようなものです。

ここで引用されているみことばは、申命記 25:4 に記されています。また、そこと同じみことばがパウロによって、I コリント 9 章でも引用されています。そこで、パウロは、こんなことを言うわけです。『9 モーセの律法には、「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」と書いてあります。いったい神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。10 それとも、もっぱら私たちのために、こう言うおられるのでしょうか。むしろ、私たちのためにこう書いてあるのです。なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をすることは当然だからです。』(I コリント 9:9-10) って…。⇒このみことばは、『耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をすることは当然』であると教えます。

それと、もう1カ所、「働き手が報酬を受けることは当然である」というのは、ルカ 10:7 に記されている、イエス様のお言葉です。…このように、明らかに、聖書のみことばは、牧師たちが、その働きに相応しい報酬を受けるべきである！を受けて当然である！ということを教えてくれています。…じゃあ、私たちは、教会の牧師に対する報酬を、どのように考えるべきでしょうか？

●教会内にはびこる「間違っただけの価値観」とは？

でも、そういったようなことを言いますと、時々、こんな意見が返ってくる場合があります。…例えば、「でも、イエス様は、質素と言うか、むしろ貧しい生活を送られましたよね？また、あのパウロは、教会からの献金を受け取らず、天幕作りで生計を立ててましたよね？」って…。皆さんは、どう思われます？

どうか、皆さん。聖書を読む時、また、みことばを実生活に適用する時、聖書のみことばをじっくりと比較 & 検証することをしないで、それらを皆、同じレベルに置いてしまうことがないように、注意してください。…どうということかと言いますと、今から、2つの例を紹介しましょう。

まずは、聖書が教える結婚に関する教えです。創世記 2 章には、あのアダムに対して、神がエバを与えてくださった時、こう記されています。『それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。』(創世記 2:24) って…。良いでしょうか？皆さん！これは、アダムとエバに対して“だけ”、神様が教えてくださった内容ではありません。すべての人たちが守るべき「結婚に関する原則」なのです。だから、ここ創世記 2 章では、「それゆえアダムは…」と言わずに、『それゆえ男は…』と言って、すべての男たちに関して言及してあるわけです。また、アダムとエバには、人間の父も母も居なかったのに、『その父母を離れ…』なんて書かれてあるのも、これはアダムとエバに対する教えではなく、その後のすべての結婚に関する「原則」であるからです。…そうでしょ！だから、このみことばが、エペソ書 5 章でも引用されて夫婦のあるべき姿について教えられ、また、それがキリストと教会とを指した奥義であるというわけです。

以上のことから、明らかに、聖書のみことばは「一夫一婦制」を教えています！ですから、男性であろうと女性であろうと、妻以外に妻のような存在がいる…、夫以外に夫のような存在がいるというのは、明らかに、神様のみことばではありません。…そうでしょ！

なのに、一部の方たちは、「じゃあ、どうして、あのアブラハムは女奴隷ハガルを選んで、イシュマエルを儲けたのですか？また、あのダビデ王には、たくさん妻がいたのですか？」みたいな質問をされることがあります？…でも、そういったことは、ほとんど議論の価値がありません。聖書は、ただ、実際に起こったことを…、例え、それが罪であったとしても、事実として、ありのままを記録してくれているわけで、何も、アブラハムのすべてを見習いなさい！ダビデ王のしたことすべては正しいなんて教えていないからです。…ね！

それと、もう1つは、伝道と言うか、未信者に対する証しです。時々、未信者に対する証しと言うか、私たちクリスチャンたちが取るべき態度について、こんなことを聞くことがあります。『みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。…』(II テモテ 4:2) って…。確かに、これは聖書のみことばですが、でも、I ペテロ 3:1 には、『同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たゞ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとなるようになるためです。』とあります。…一見、全く正反対のアプローチを教えているように見えますが、これらのみことばは、それぞれ、語られている対象が違います！状況だって違いますでしょ？

まず、II テモテのみことばは、牧会者であるテモテに対して、牧会者としての務めについて説明されたものです。それに対して、I ペテロのみことばの方は、未信者の夫を持つクリスチャンの妻に向けて書かれたみことばです。つまり、全く、書かれた対象も状況も違うのに、ある方たちは、こう教えられているのです。「相手の人が救われるために、時が良くても悪くてもしっかりとみことばを宣べ伝えなさい！」って…。いいえ、

聖書のみことばは、そうは教えません。私に言わせれば、聖書は、マタイ 5 章で、イエス様が教えてくださったことの方が、未信者に対する証しについて教えられてあると思います。マタイ 5:16 で、イエス様は、こう教えてくださいました、『このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』って…。いかがです？先程見た II テモテのみことばよりも、こっちの方が、より具体的かつ、伝道に関する直接的な教え・アドバイスだと思われませんか？

●聖書の指針(=神のみことば)とは？

じゃあ、今日のテーマに戻っていきましょう。…確かに、聖書には、報酬や献金の使われ方に関して言及されているところが幾つかあります。でも、私たちは、そういったみことばを皆、同じレベルに置いてしまうと、議論が成立しません。正しい聖書理解にまで行き着かないのです。…と言いますのも、先程の例で見たように、そこで語られてある状況が違っていたり、そもそもの対象が違っていたりするからです。

恐らく、イエス様は、どちらかと言うと、質素であったと思われるが、でも、果たして、イエス様は牧師だったのでしょうか？確かに、イエス様は、ヨハネ 10 章で、『わたしは良い牧者(つまり、羊飼いです…。』(ヨハネ 10:14)とおっしゃいましたが、イエス様が、教会の牧師であったかと言うと、多分、賛否両論あるかと思えます。また、イエス様には、熱心な支持者が居て、彼らが高価な捧げ物をしたことが聖書には記されています。だから、イエス様が質素であったから、牧師もまた、イエス様のように質素な暮らしをしないといけないというのは、かなり、無理があるように思われます。また、そのイエス様御自身が、先程見たように、ルカ 10 章で、「働き手が報酬を受けることは当然である」と教えてくださったのですよね？

また、こんな意見があるかも知れません。例えば、「あのパウロだって、一部の教会のサポート、つまり、経済的な支援は受けずに、天幕作りで生計を立てていたでしょ？」って…。確かに、パウロは、一部の教会からの経済的な支援を受けてはいなかったようですが、しかし、ピリピ教会からの献金を感謝して受け取っていたことがピリピ 4 章で教えられています。…そして何より、パウロ自身が、今日私たちが学んでいるみことばを書き記して、「牧師たちが十分な報酬を与えられて、当然である！」ということを教えてくれているわけですよね？…これ以上の根拠が必要でしょうか？

確かに、I テモテ 3 章には、監督…、つまり、牧師の条件として、『金銭に無欲で』(I テモテ 3:3)あらなければならない！ということが教えられています。じゃあ、教会は、牧師たちに十分な尊敬や報酬を与えないで良いのでしょうか？…いいえ。それと、これとは全く別問題ですよ？

でも、ある人たちは、こうおっしゃいます、「でも、教会の中には、十分な報酬を与えられず、残業も付かない、労災だって使ってもらえないような…、所謂、ブラック企業に勤めている人たちも居ます」って…。確かに、そうかも知れません。でも、皆さん、考えてくださいます？…教会とは、「生けるキリストのからだ」でしょ？…じゃあ、それぞれのキリスト教会は、例えば、多くの教会員たちがブラック企業に勤めているからという理由で、その教会も、それに合わせてブラック企業と言うか、ブラックな職場であって良いのでしょうか？…それとも、教会とは「現代に遣わされた、生けるキリストのからだ」であるがゆえに、誰もが羨むような、超ホワイトな職場であるべきでしょうか？どちらでしょう？

もちろん、教会が十分な収入が無いために、牧師たちに十分な給与が支払えない場合だって有り得ます。しかし、もしも、そうでないなら、牧師たちへの支援・報酬に対して、教会は責任を負うべきじゃないのでしょうか？…だって、聖書のみことばが…、神様が、そう教えているのなら、そこにもう選択の余地はないのではないのでしょうか？

III・牧師たちを「守って」やりなさい！(19-25 節)

もう、ここまでで、かなりの時間を要してしまいました。最後は、駆け足で、最後3つ目のポイントを見ていきましょう。それは、**牧師たちを“守って”やりなさい！**ということです。どうぞ、今日のみことばの 19-25 節をご覧ください。そこには、こう記されています。

19 長老に対する訴えは、ふたりか三人の証人がなければ、受理してはいけません。

20 罪を犯している者をすべての人の前で責めなさい。ほかの人をも恐れさせるためです。

21 私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちの前で、あなたにおごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行いなさい。

22 また、だれにでも軽々しく接手をしてはいけません。また、他人の罪にかかわりを持つてはいけません。自分を清く保ちなさい。

23 これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。

24 ある人たちの罪は、それがさばきを受ける前から、だれの目にも明らかですが、ある人たちの罪は、あとで明らかになります。

25 同じように、良い行いは、だれの目にも明らかですが、そうでない場合でも、いつまでも隠れたままでいることはありません。

●その働きのために、誤解を受けやすい？

今読んだ 19 節には、『長老に対する訴えは、ふたりか三人の証人がなければ、受理してはいけません。』ということが教えられています。これは、明らかに、マタイ 18 章で教えられている、一般教会員に対する「教会戒規」、つまり、「もしあなたの兄弟が罪を犯したら…」という、あの教えよりは、少しハードルが高くなっています。つまり、牧師たちに対する訴えは、1 人ではなく、複数で対応しなさい！というわけです。…恐らく、そうになっているのは、牧師たちは、その職業上、誤解されってしまうような状況になってしまっているから、だろうと思われる。

でも、その反面、20 節には、**牧師たちに対する厳しい教えが記されています。ここで言われている『罪を犯している者』**と言いますのは、恐らく、「牧師たちの中で、何らかの責められるべき罪を犯し続けている者」という意味でしょう。あのマタイ 18 章で教えられている「教会戒規」の教えは、一般の教会員を想定してあるので、初めは 1 対 1 で話しをして、それがダメなら 1 人か 2 人の証人を連れて話し合い、もし、それでもダメなら、教会全体に…、という風にあるので、最初は、比較的、少人数で「教会戒規」のプロセスが進んでいきます。

しかし、**ここ 20 節のみことばでは、『すべての人の前で責めなさい！』**とあります…。つまり、もし罪を犯したのが一般の教会員ではなく、牧師であった場合、そのステップは、最初から複数の証人から始まって、そうして、それがダメなら、教会全体が知るところとなるわけです。いかがです？…一般の教会員と比べて、明らかに、対応が早いと言うか、厳しいことが分かります。ただ、この言い回しは、「現在能動分詞」という表現・文法が使われてありますので、その意味するところは、「1 度だけ罪を指摘されて、その罪を悔い改めた牧師」という意味ではなくて、「その罪を指摘されても、悔い改めようとしなかった牧師」という意味です。…つまり、牧師たちは、何かの訴えに関するハードルが高いということもありますが、その反面、もし何らかの罪を犯してしまった場合、その対応も教会員が同じような罪を犯してしまった場合よりも、多少厳しいものであるべきだ、ということなのです。

●牧師たちは、大切な器である。

どうぞ、今度は 21 節をご覧ください。ここでパウロは、『私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちの前で、あなたにおごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行いなさい』

い。』と教えます。「これこそが、神様のみこころであるから、あなた方は言い訳をしたりせず、しっかりと、ここで教えられてあることを実践しなさい！」という意味でしょ？

その次の 22 節で教えられてある、『だれにでも軽々しく握手をしてはいけません。…』とありますが、「握手」と言いますのは、現代でも、牧師や宣教師たちが神学校を卒業したり、宣教地に遣わされたりする時に、「遣わされる者に対して、手を置いて、神の祝福や助けを祈る儀式」のことです。でも、「軽々しく握手をしてはいけません」と警告されてあるのは、牧師や宣教師になるというのは、決して、そうたやすいものではないということです。…だから、それと同じことが、ヤコブ 3:1 でも教えられてありますでしょ？『私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。』…まさしく、今日のみことばで教えられてあることと同じじゃありません？

そのように、牧師たちと言いますのは、簡単にとっかえひっかえできるような存在ではありません。だから、私たちは牧師たちを大事に扱うべきだし…、牧師たちのために祈り…、牧師たちのことを、時間をかけて訓練し、また、養成していくべきなのです！この教会も！

●牧師たちは、ストレス も多い？

実際、あのテモテは、あの当時、胃のために、たびたび病気を起こしていたようです。今から 2000 年も前のこの当時は、今は違って、飲み水があまりキレイではありませんでした。特に、この中東エリアでは…。そのために、この当時は、消毒の意味もあって、水に少々のアルコールを混ぜたのです。…恐らく、テモテが患っていた病は、今で言う胃潰瘍とかの消化器系の疾患でしょう…。皆さんもご承知のように、こんな私でさえ、一時期は、十二指腸潰瘍で、簡単な手術と入院をしましたでしょ(2011 年)？

いえ、私だけではありません。私も知っているのは、ある牧師は、現役の時(つまり、牧師でありながら)、自殺未遂をはかってしまった者もおります。また、多くの者が過大なストレスを感じて、その職を辞めていった者たちも数多くおります。…もちろん、牧師じゃなくても、多くの人たちが過度のストレスで苦しんでおられます。牧師だけではありません。でも、牧師たちもまた、同じように苦しんでいるという現実を分かっていたきたいと思います。それと、一般の職業の場合、その人たちが苦しんでいるのは、職場での環境や人間関係で苦しんでおられるパターンが多いと思われるんですが、牧師たちの場合は、多分、教会での人間関係や同じ信仰を持ったクリスチャンからの冷遇などで苦しんでいる場合があったりします。

でも、ここではっきり言っておきたいのは、私の場合は、この教会に来られて、私は神様と教会の皆さんに深く感謝しています。少し前にも言いましたように、あまり牧師として成熟していない私のような者が、ここまで、牧会をやったのは、神様の恵みはもちろんですが、皆さんのご理解とご協力があったがゆえで、私は、そのことを深く皆さんに感謝しています…。でも、世の多くの牧師たちは、ひょっとしたら、そうじゃないということです…。

最後の 24-25 節のみことばは、少し前の 20 節や 22 節のみことばと続いている…、関連があると思われれます。確かに、私たち人間の目は、神様とは違って、すべての問題や様々な罪、また、誤りを見抜けるようなものではありません。でも、神様の前に隠しおせせる罪はありません。天の神様は、いつの日か必ず、そのような罪を明らかにして、何らかの裁きを下されるでしょうし…、その逆に、良いことだって、神様は、そのままにはしておかれません。正しい審判者であられる神様は、いつの日か、必ず、良い行ないに対しても、素晴らしい報いを与えてくださることが教えられてあります。

<励ましの言葉>

いかがでしょう？…正直言って、今日私たちが学んできたみことばは、牧師たちにとって、ひょっとしたら都合が良過ぎるような教えが多かったかも知れません。しかし、いつも言いますように、誰にとっても都合が

良いとか悪いとかではなくて、問題は、神様が何と教えてくださっているか？神様のみこころがどうであるか？であるはずですよ。今、私が願っていることは、今日のこのメッセージがインターネットを通して、多くのクリスチャン…、多くの教会が聞いてくださることで、多くの教会…、また、多くの牧師たちを取り囲む環境が少しでも良くなっていくことです。

ついさっきも言いましたように、私は、八田西 CC の皆さんに心から感謝しています。私は、この教会の皆さんが大好きです！…でも、だからと言って、今日学んだみことばのすべてを今、この八田西 CC が実践できているとも思えません。私たちには、まだまだ、やらなければいけないことがたくさんあるし、学んでいくべきことや改めていくべきことも、たくさんあるはずですよ。…でも、間違いなく、天の神様は、すべてのことを御存知です！神様は、いつか必ず、私たちに相応しい報いを与えてくださいます。どうか、皆さん、そのことを期待して、ますます、神様の前に、正しいこと…、できることを実践していきましょう。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。